



夢を描き 絆を深め 高め合う生徒 ～輝きと潤いのある学校～

令和4年度 砥用中学校職員

- ①校 長 樹本 龍次
- ②教 頭 漆島 未央
- ③教 諭 夏原 秀一 (教務主任・英語)
- ④教 諭 松原 二郎 (1年主任・数学)
- ⑤教 諭 益田 誠悟 (1年担任・保健体育)
- ⑥講 師 田崎 愛 (1年副担任・国語)
- ⑦学 習 支 援 長谷川 寛 (1年担当)
- ⑧教 諭 波田地貴志 (2年主任・理科)
- ⑨教 諭 野村 奈央 (2年担任・音楽, 家庭)
- ⑩教 諭 塚原 三広 (2年副担任・美術, 技術)
- ⑪学 習 支 援 鹿釜由佳子 (2年担当)
- ⑫教 諭 藤城貴美子 (3年主任・英語)
- ⑬教 諭 河野 好美 (3年担任・社会)
- ⑭教 諭 元松由香利 (3年副担任・数学)
- ⑮学 習 支 援 吉成智恵美 (3年担当)
- ⑯教 諭 松山 勇次 (やまびこ学級担任)
- ⑰教 諭 佐伯 和美 (くすのき学級担任)
- ⑱養護教諭 藤本美砂子
- ⑲栄養教諭 吉田はるみ
- ⑳事務主任 中村 勝美
- ㉑用 務 員 松本なるみ
- ㉒相 談 員 柴垣富貴子
- ㉓図書管理 岡村 美穂
- ㉔A L T マクファレイン・ライアン



「夢を描き、絆を深め、高め合う生徒 ～輝きと潤いのあるの学校～」を掲げスタート!



お世話になります。校長の樹本です。
平成6年度から7年間、砥用中学校に勤務して、再び帰って来ることができました。立場は変わりましたが、砥用中学校の発展のために精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

[学校HP「ようこそ！校長室へ」もご覧ください](#)

「夢を描き」とは

中学校生活の最大の目標は「進路決定」です。将来の夢に近づく進路を選択・決定するために、「1年生は夢を持つこと」「2年生は夢を追うこと」「3年生は夢をつかむこと」を念頭におきながら、見通しをもって学校生活を送ってください。「なぜその進路に進むのか」「その進路で何を身に付けるのか」自分のことばで明言できるようになる強い意志が身につけていきます。



「絆を深め」とは

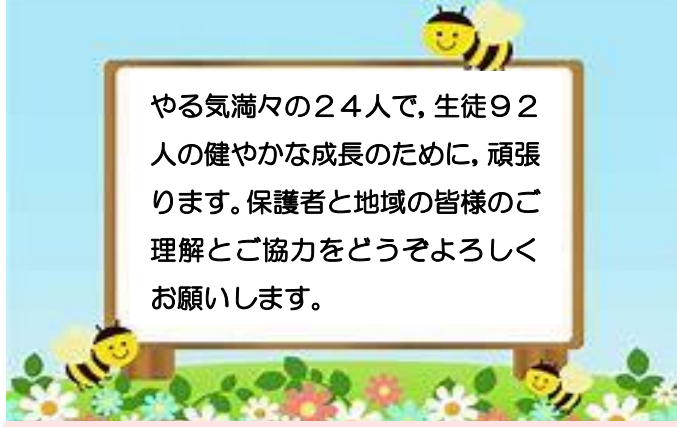
同級生という仲間との関係がより一層強く結ばれることを望みます。そのためには、相手の考えや行動を尊重すること、そして自分の思いを伝え合える関係になるようにお互いが努力することです。美里町に生まれ、育ち、砥用中学校で学んだことを誇りに思い、みんなが「美里町が好き！美里町で良かった」と自信を持って言えるようになって欲しいです

「高め合う」とは

学び合い、競い合うことで、個性や能力の成長が期待できます。また、大人になって必要になるのが、仲間と意見を出し合いながら協力して課題を解決していく態度です。中学生期から学習や部活動等を通して、仲間と一緒に課題を解決していく態度を養うことを期待します。

「輝きと潤いのある学校」とは

生徒一人一人が自分自身の良さを存分に発揮しながら学校生活の中で輝くことを期待しています。また、先生たちにも輝いて欲しいです。たくさんの輝きが、学校に潤いをもたらすし、砥用中学校のみんなが幸せを実感できる学校を目指します。
※ 学期末には、校長特別賞「輝きと潤い」を準備しますので楽しみにしててください。



やる気満々の24人で、生徒92人の健やかな成長のために、頑張ります。保護者と地域の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

砥用中学校「開校40周年」～昭和57年度～

砥用東・砥用西中学校が統合して、昭和57年4月に砥用中学校として歩みはじめてから40年が経ちました。40周年を機に過去を振り返るコーナーを設けました。

- ・昭和57年4月1日 新設校 砥用中学校が発足
- ・初代校長 上野 一徳先生 ・教職員 28人
- ・生徒数 396人 (1年131人・2年124人・3年141人)
- ・校歌制定 作詞：上野一徳 作曲：本住己未生
- ・PTA役員 会長：森田幸男 副会長：境 洋治
副会長：塚本寿一 副会長：松岡明恵
- ・57.6.11 グランド西側に体育倉庫と部室を建築 (現在は、改築・新築され、当時の建物はありません)
- ・57.10.15 給食室完成

「配布プリントの確実な受取」「体調管理」

学校の年度初めには、たくさんの配付物があります。必要事項を記入しての学校提出もありますので、しばらくは毎日のように「学校からプリントもらって来なかった？」と、子どもさんへの声かけをお願いします。



また、新年度は学校行事が続きます。早めに就寝することを心がけて体調管理に努めてください。特に1年生は、大きく環境が変化して、気疲れで体調を崩しやすくなります。無理をせず自分のペースで行事に参加したり、休日は、体を休めることを優先しながら過ごすことも必要です。